

主題名 家族のために

小学校第2学年 C- (13) 家族愛, 家庭生活の充実



1 児童の実態 ポイント 1

日々の生活の中で、父母や祖父母の存在を大切だと感じている児童が多い。しかし、家族に自分の世話等をしてもらうことを当たり前のように感じ、自分から進んで家の手伝いをしたり家族のために役立ったりすることのよさに気付いていない面もある。

2 ねらい ポイント 1

これまでの自分と家族との関わりを振り返ることを通して、自分に対する家族の気持ちを考えることの大切さに気づき、進んで家族のために役立とうとする心情を育む。

3 教材名(出典) 「お風呂プール」(学研「新 みんなのどうとく 2年」)

4 考えさせたいこと ポイント 1

自分に対する家族の思いや、家族に対する自分の行動を見つめ直し、どのような言動が家族を幸せな気持ちにさせることができるのか、自分が行おうと考える能動的な立場のみならず、父母や祖父母の立場からも捉えることで、様々な視点からより多面的・多角的に考える。

5 学習指導過程 ポイント 1

過程	学習活動と主な発問 (○基本発問, ◎中心発問, ・補助発問)	・予想される児童の発言	□指導上の留意点 ◆評価の視点(方法)
導入 5分	<p>1 本時の学習課題を設定する。</p> <p>○みなさんがお家の人のためにやったことのあるお手伝いを教えてください。</p> <p>・そのお手伝いは誰のためにしてあげたのですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ご飯の準備や片付け ・靴の整頓 ・お風呂の掃除 ・洗濯物をたたむ ・お母さんやお父さん ・弟や妹 ・家族 	<p>□これまでの生活や経験を思い出させることから、本時の学習課題を設定する。</p>
展開 35分	<p>2 教材「お風呂プール」を読んで、けんたやお母さんの気持ちを考える。</p> <p>○生まれてから今までに、お父さんやお母さん、おじいちゃん、おばあちゃんにどのようなことをしてもらいましたか。</p> <p>○お母さんの顔や電話の声を思い出したとき、けんたはどのような気持ちになったでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園や幼稚園の送り迎え。 ・風邪を引いたときのお世話。 ・習い事の応援。 ・毎日のご飯を作ってくれる。 ・転んだり泣いたりしたときに抱っこしてくれる。 ・大事にしてくれたのだな。 ・電話でひどいことを言っちゃったな。 ・お母さんを悲しい気持ちにさせちゃったな。 ・お母さんのために何かできないかな。 	<p>□範読を聴く際に、けんたの気持ちを考えながら聴くように促す。</p> <p>□けんただけではなく、自分も家族の無償の愛情で育ててもらっていることに気付けるように家族にしてもらったことの経験を問う。</p> <p style="background-color: #FFD700;">□多面的・多角的な捉え方ができるように、子供の希望に沿えない母親の無念な気持ちを併せて問う。 ポイント 2</p>

展開 35分	<input type="checkbox"/> 「おふろプール」に入っているけんたとお母さんが笑顔なのは、なぜでしょう。お母さんとけんたの立場から話してみましょう。 ポイント 2	<けんた> ・お母さんが喜んでくれて嬉しかったな。 ・お母さんのために頑張ったよ。 ・手伝ってくれて嬉しいな。 <お母さん> ・手伝ってくれてありがとう。 ・けんたは優しいね。 ・お母さんとっても助かったよ。 ・手伝ってくれて嬉しいな。	<input type="checkbox"/> 多面的・多角的に捉えられるようにお母さんとけんたの双方の立場から考える。 ポイント 2 <input checked="" type="checkbox"/> 様々な登場人物の立場から、家族のために役立とうとするよさについて考えているか。(発言・観察) ポイント 3
	<input checked="" type="checkbox"/> これから家族が笑顔になるために、やっていきたいことやできそうなことはありますか。 ポイント 2	・元気に「行ってきます」を言う。 ・笑顔でいる。 ・言われる前に宿題をする。 ・習い事を頑張る。 ・「ありがとう」を言う。 ・何かできるようになったとき。 ・元気よくあいさつをしたとき。 ・何かしてあげたとき。	<input type="checkbox"/> お手伝いだけでなく、何気ないことが家族を幸せな気持ちにさせることに気付けるように問い返す。 <input type="checkbox"/> 自分事として捉えられるように、自分ならどのようなことができそうか問う。 ポイント 2
	・家族が笑顔になったときは、どんなときでしたか。	・これから家族のために頑張りたい。 ・家族の笑顔を考えながら生活していく。 ・お家の人の気持ちも考えていく。	<input checked="" type="checkbox"/> これまでの自分の生活を振り返りながら、家族のためになることについて考えているか。(ワークシート・発言) ポイント 3
終末 5分	3 「かぞく」について、これからの生活を踏まえて考える。	<input checked="" type="checkbox"/> これからの自分について授業での議論を踏まえて、考えを深めているか。(ワークシート) ポイント 3	

6 評価の視点

- ・これまでの自分の生活を振り返りながら、家族のために役立とうとするよさについて考えていたか。(発言・観察)
- ・様々な登場人物の立場から、自分の家族のためになることについて考えていたか。(ワークシート・発言)



ポイント 1 「考えさせたいこと」を基に学習活動を設定する

学級の児童と長い時間を共に過ごす小学校教員は、生活全体を通して児童の実態を捉えられる。

「家族愛、家庭生活の充実」に関わる児童の実態として、日々の生活の中で、父母や祖父母の存在を大切だと感じているが、家族に自分の世話等をしてもらうことを当たり前のように感じ、自ら進んで家の手伝いをしたり、家族のために役立ったりすることのよさに気付いていない面がある。そこで、自分に対する家族の思いや、家族に対する自分の行動を見つめ直すことで、どのような言動が家族を幸せな気持ちにさせることができるのか、自分が行おうと考える能動的な立場のみならず、父母や祖父母の立場からも捉え、様々な視点からより多面的・多角的に考えさせたいと思い、学習活動を設定した。

ポイント 2 学習活動を基に児童の様々な学びの姿を想起する

「おふろプールに入っているけんたとお母さんが笑顔なのは、なぜでしょう」という発問については、児童がけんたやお母さんになりきって、気持ちを考えやすくするために役割演技を取り入れた。けんただけではなく、お母さんの気持ちに触れさせることで、お手伝いという行為が、家族をどのような気持ちにさせるのかを理解するために有効な手立てであったと考えられる。さらに、けんたとお母さん双方の立場から考えることで、多面的・多角的に捉えさせることができた。また、これまでの自分の生活を振り返りながら、家族のために役立とうとするよさについて考えていた。

中心発問では、お手伝いという行為だけではなく、何気ないことが家族を幸せな気持ちにさせることに気付かせたかった。そのため、お手伝い以外の、家族に対しての行動や家族への言葉、感謝の気持ち、頑張る姿など多面的・多角的に考えさせるようにした。

ポイント 3 児童の学びの姿を見取る（具体的な評価の方法）

1 板書の記録及びネームプレートの活用



2 ワークシート

11 おふろプール

名前 一年一組 番

あなたは かぞくみんなが えがおになるために これからしていきたいことは ありますか。

じぶんの 考え

（ ） なるほどね いいかんがえだね すこいね・おかりやすいね

☆きょうのじゆぎょうを ふりかえりましょう☆

◎よくできた ○できた △もうすこし

じぶんで かんがえた。	ともだちのかんがえを よく聞いた。	じぶんのことについて ふりかえった。

☆きょうのじゆぎょうの かんそうを書きましょう☆

えがおはたいじだと田んぼ。

その他の学習指導の様子

1 児童の思考を促す問い返し

①生まれてから今までに、お父さんやお母さん、おじいちゃん、おばあちゃんにどんなことをしてもらいましたか。

④その薬を買ってくれたのは誰ですか。〇〇さんが風邪をひいたとき、家族はどう思っていたのかな。

③看病してもらってない。薬を飲んで寝ていただけ。

⑤あ、そうか。お母さんだ。

②風邪をひいたとき、看病してもらいました。

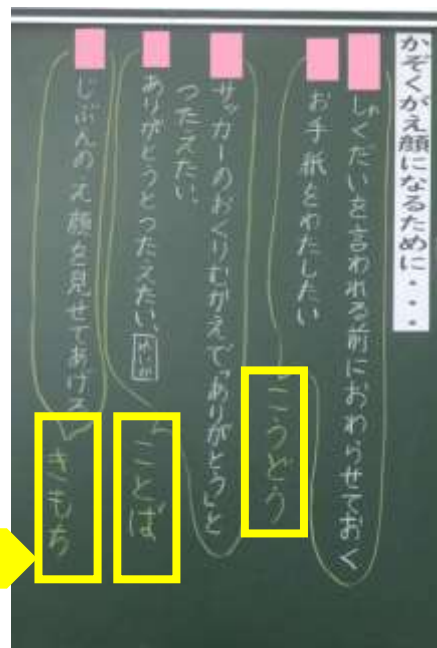


「生まれてから今までに、お父さんやお母さん、おじいちゃん、おばあちゃんにどんなことをしてもらいましたか」という発問について、今までやってきてもらったことが当たり前過ぎて、「やってもらっている」という感覚が児童の中にあまり感じられていなかった。しかし、上記のやり取りの後、どのようなことを考えればよいのか明確になり、これまでの生活や経験を振り返りながら考えている姿が見られた。

2 発問の改善

本時は、お手伝い以外の行動や言葉、態度で示す気持ちも家族を笑顔にすることにつながると気付かせたかった。しかし、お手伝いを中心に授業が流れてきたので、中心発問で、お手伝い以外の考えは引き出しにくかった。そこで、「自分の子どもが習い事の送り迎えの際、『いつもありがとう』と言ってくれたことが最近一番うれしかったな」と授業者の経験を話したことで、「感謝を伝える」というお手伝いにとどまらない意見が出された。また、児童から出された意見を分類しキーワードで示したことで、視覚的に理解しやすくなり、本時のねらいや育みたい心情に迫ることができた。

児童の実態や教材の特性から、「みんながお手伝いをすることで、家族にどうなってもらいたいですか」という発問も考えられる。児童は「家族に笑顔になってもらいたい」「元気になってもらいたい」「喜んでもらいたい」「幸せになってもらいたい」と、自分本位のお手伝いではなく、家族の気持ちを考えるお手伝いの大切さに気付いたかもしれない。さらに、具体的なお手伝いの内容ではなく、「なぜ進んで家族のために役立つことが大切なのか」や「何のためにお手伝いをするのか」「自分のお手伝いによって、家族をどうしたいのか」を考えさせることで、家族のことを考えるお手伝いになっていくと考えられる。



キーワード